銚子川の舟渡し体験

発掘の石畳散策も

探訪ウオークに29人

尾鷲市林町、くまの体験企画（内山裕紀子代表）の地域探訪ウオークイベント「紀伊半島みる観る北町の知られざる熊野古道を歩こう！」が10日、紀北町便ノ山地区周辺であり、県内外の参加者29人が銚子川の舟渡し体験を発掘石畳散策も

銚子川の舟渡しを楽しむ紀伊長島みる観る探検隊の参加者たち（紀北町便ノ山で）

歴史や文化に理解を深めた。

熊野古道世界遺産登録20周年記念で“世界遺産に登録されていない熊野古道”を巡る企画の第2弾。今回は便ノ山地区を舞台に昔の旅人が利用していた銚子川の舟渡しを体験し、馬越峠登り口に至る鷲ドみちや地元有志が発掘した石畳などを巡る約6・5キロのツアー。

参加者は相賀の銚子川河川敷駐車場に集合。内山代表が参加者に船賃となる「寛永通宝」を手渡し、熊野古道語り部友の会会長の西尾寛明さんと地元で地域おこし活動に携わる主津充さんの案内で2班に分かれて出発した。

真興寺や水神社を見学し、約1時間で便ノ山橋近くの宇山の渡し場に到着。江戸時代は銚子川を越える手段で舟渡しが利用され、十返舎一九の旅行記『金の草鞋』には「粉本（このもと）＝相賀＝とき町なり出口に川あり。大水の時はこの川3カ所（勝ノ木、宇山、便ノ山）にて渡る。川上の便ノ山村に舟渡しあり」と記されている。

NPO法人ふるさと企画舎の田上宏理事長が種まき権兵衛の衣装で船頭を務め、銚子川で13年ぶりに舟渡しを再現。参加者は船賃を渡して6人乗りの川舟（全長4・5メートル、幅1・4メートル）に乗り込み、いにしえの旅人に思いをはせながら銚子川を渡った。

後半は主津さんら地元有志が20年前に掘り起こした便ノ山～熊野みち約80メートルの発掘石畳散策して約3時間のツアーを楽しんだ。熊野市木本町から参加した70代女性は「みる観る探検隊は大のお気に入りで毎回知人と参加している。舟渡しは昔の旅人になった気分でわくわくしながら乗せてもらった」と話していた。

同イベントは東紀州地域の名所や自然文化、歴史遺産などの魅力スポットを巡る人気企画。今回のツアーは参加希望者が多く2回に分けて開催し、好評だったという。

内山代表は「心配だった天気も何とか持ちこたえ、舟渡し体験ができて良かった。銚子川の水量など条件によって渡る場所が変わっていたことも実感してもらえたのでは」と喜び、「今回のツアーを通して峠道以外の部分も目の目を見て、熊野古道の歴史的価値が見いだされるきっかけになればうれしい」と話していた。